

## 牧野植物園

[615,016千円]  
(自然共生課)

### 植物園の概要

牧野植物園は、昭和33年に、高知県が生んだ植物学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰する施設として高知市五台山に開園し、平成11年11月には「牧野富太郎記念館」が開館、園地面積を拡張しリニューアルオープンしました（第一期整備事業）。

植物園地は17.8ha（うち6haを供用）、主要施設として、牧野富太郎記念館（本館、展示館）、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、学習館、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなどがあります。



牧野博士と牧野富太郎記念館（展示館）

### 運営主体

財団法人高知県牧野記念財団を指定管理者に指定（H18.4.1～H23.3.31）。

### 主な植物園活動実績等

牧野植物園では、植物に親しみながら、植物の大切さや自然環境の保護保全について改めて考えていただく機会を提供するため、各種教室や企画関連イベント、展示活動等を行っています。

#### (1) 植物教室

植物に関心や親しみを持ってもらうため、園内の植栽を中心に季節のテーマに沿って実際の植物を観察する教室です。

「ふれあい植物観察会」「夏休み親子標本づくり」「アジサイ教室」など。

#### (2) 子ども自然体験教室

いろいろな体験を通して子どもたちに五感で自然を感じてもらうことを目指して月に1度実施しています。

「夜の植物園手作り教室」「夏のおやつ教室」「五台山をあるこう！」など。

#### (3) 体験教室

植物を素材にした「ものづくり」を通じて、暮らしの中で植物を身近に感じ、生活を豊かにする植物の魅力を感じてもらえる教室です。

「アロマテラピー教室」「こけ玉教室」「さく葉教室」など。

#### (4) 企画展関連イベントなど

植物に興味・関心を抱き、植物園に足を運んでもらうきっかけづくりとして、植物や牧野富太郎博士に関連した講演、生きた植物の展示や教室、イベントを開催しています。

「EARTHDAYS 2006 KOCHI at MAKINO」「夜の植物園」「ラン展」など。

#### (5) その他

来園者への展示解説・植物解説、園外への講師派遣、小学生向け冊子「まきのポケット」の県下小学5年生への無料配布などを行っています。

平成18年度植物園入園者数 128,331人

### 開園50周年記念事業に向けて

牧野植物園は、昭和33年の開園から来年（平成20年）で50周年を迎えます。この大きな節目を迎えるにあたり、平成19年度から植物園に50周年記念事業事務局を設置し、記念事業『五台山花絵巻』に向けての準備を進めています。

県と牧野植物園では、平成20年に県下全域で開催される『花・人・土佐であい博』のオープニングの催しとして、また、同時期に開催されるジャパン・フラワー・フェスティバル（高知初開催）との連携を図りながら、高知県への関心や機運を高めることができるよう取り組んでいきます。

### 研究型植物園として

牧野植物園では、平成15年度から研究型植物園への移行を目指して第二期整備事業に取り組んでいます。

この事業は、薬用や花卉、食用等の分野で人間の生活に利用される植物（有用植物）の研究、栽培、利用技術の開発を通じて得られた利益を高知県に還元させるとともに、県の産業振興にも役立てようとするものです。

このため、未利用園地や研究施設等の整備、公設試験研究機関や大学、企業と連携した研究活動体制の構築に向けて引き続き取り組んでいきます。

牧野植物園ホームページ

<http://www.makino.or.jp/>

田んぼの生きもの調査

(農業基盤課)

農業用水路や田んぼなどは、農業生産の場であると同時に、多くの生きもの達の生息場所にもなっています。この田んぼのまわりにみられる生態系は、田んぼで米づくりが営まれることによって成り立っています。このような生態系や美しい景観などの農業・農村がもつ働きを多面的機能といいます。

近年、このような多面的機能の大切さが認識されるようになっていますが、これまで田んぼやその周辺における生物の調査はあまり行われてこなかったことから、全国的な分布状況等といった詳細な情報が不足しています。

このため平成13年度から環境省と農林水産省の協力のもと、農業用水路やため池などの農業水利施設の管理をしている土地改良区や整備をしている県の職員が中心となり、地域の小学生や子供会と一緒に田んぼまわりの生物調査（略称「田んぼの生きもの調査」）を実施しています。

18年度は高知県内の南国市十市地区、春野町西諸木地区、日高村日下加茂地区、四万十町東又東部地区の4地区で調査を行いました。

このうち、四万十町東又東部地区では、平成18年度にはほ場整備工事を行う水田の生き物を救出し、ほ場整



ドジョウ救出作戦（四万十町東又東部地区）



田んぼの生きもの調査（同上）

備事業により整備した生態系保全水路に移動させる「ドジョウ救出作戦」を「田んぼの生きもの調査」と併せて実施しました。その結果、ドジョウやイモリ、カワムツなど6種の生物を見つけ出し、生態系保全水路に放流しました。

ドジョウ救出作戦の様子は、下記アドレスから閲覧できます。

<http://www.pref.kochi.jp/%7bkouchi/kankyoususaki/kankyoususaki.html>

また、他の3地区の生きもの調査ではメダカやドジョウ、フナ、バラタナゴ、ツチガエルなど様々な生き物が確認されました。

今後、この調査結果を蓄積していくことにより、田んぼまわりの生態系の状況を把握するとともに、生きものに優しい環境を保全していくために役立てることにしています。



生態系保全水路への放流（同上）



確認されたバラタナゴ（日高村日下加茂地区）

「四国はひとつ」4県連携施策 [1,000千円]  
環境教育合同事業 (小中学校課)

四国4県が連携して環境教育についての合同事業を行うことにより、海や山、川などの四国の優れた環境を、四国4県の共通の財産として、相互に協力しながら、守り続けようとする態度を児童生徒に育みます。

環境教育連携協力校（小・中・高等学校）を指定し、その活動を支援し、相互交流を促進します。

また、年に1回、連携協力校の児童生徒や教員が一堂に会して、環境サミットを開催するなど、環境教育についての普及・啓発活動を行います。

平成19年度は、8月22日～23日に愛媛県で「第4回四国ジュニア環境サミット」が開催され、連携協力校20校の代表が集いました。

1日目は、松山市のとべ動物公園、愛媛県体験型環境学習センター、帝松サービス株式会社で体験学習を行い、2日目は、愛媛県生涯学習センターで各校が日頃取り組んでいる環境学習の成果を発表しました。

## 子ども水の旅

[344千円]  
(企画調整課)

### 実施した取組

毎年8月1日～7日の「水の週間」事業の一環として、ダムの役割や資源としての水の重要性を中心に、水の循環や、水を育む森の大切さについて総合的に理解を深めていただくことを目的として、県内の小学生と保護者を対象に、体験型日帰りバスツアーを実施しています。

これまで、早明浦ダムや本川揚水発電所や香川用水の見学、間伐材を利用した木工体験やストーンペインティングなどを行っています。



### 実施しようとする取組

今年度は、早明浦ダムの見学などによりダムの役割を学び、その後間伐材を利用した木工体験などを通して、水についての理解を深めます。

更に今後多くの人に、子ども水の旅を通じ、水は限りある資源であるという認識を広げ、水の重要性などについても理解いただけるよう努めます。

## 原子力・エネルギーに関する教育支援事業

[8,000千円]  
(高等学校課)

この制度は、「個々の国民がエネルギーや原子力について、理解を深め、自ら考え、判断する能力を身につけるための環境整備を図る。」を趣旨としているものです。

県立高校のうち工業に関する学科を設置する5校で、この制度を利用し、環境教育の一環として、高校生による小中学生向けのエネルギー教室の実施や関連施設の見学、各種研究・製作、実験実習設備の整備などをおこない、授業やクラブ活動などで実施・活用しています。

### 実施した取組

#### 1 18年度取組の内容

- ・ エネルギー教室の開催
- ・ 環境・エネルギー先端施設見学
- ・ 省エネカー及び省電力車両の製作
- ・ ソーラーボートの製作
- ・ ハイブリッドカーの基礎研究及び製作
- ・ 太陽光発電による表示パネルの製作
- ・ 太陽光発電によるバッテリー充電器の製作
- ・ 蓄電型避難誘導灯の製作
- ・ 風力発電機の製作
- ・ エネルギー教育に関する教育のための副教材購入

#### 2 取組の事例



○ソーラ発電・風力発電装置



○小学生対象エネルギー教室  
(手回し発電機の製作)



○ソーラーカー  
(競技大会出場)

### 実施しようとする取組

#### 1 19年度取組の内容

19年度も昨年度に取り組んだ内容をさらに充実させる内容を中心に、新たな取組も加え実施しています。

- ・ エネルギー教室及び出前授業の実施
- ・ 環境・エネルギー先端施設見学
- ・ 放射線計測機器の購入
- ・ 風力発電装置の設置

- ・ エネルギー・環境教育用教科書の作成
- ・ 原子力・エネルギーに関する講演会の開催
- ・ ソーラーボートの製作
- ・ ハイブリッドカーの基礎研究及び製作
- ・ 太陽光発電実験装置の構築

### 四万十川の環境を考える 若武者プロジェクト [0千円] (高等学校課・県立四万十高校生)

県立四万十高校は、「自然環境コース」を設置し、四万十川の恵まれた自然環境を生かした環境教育に関する取組を積極的に行っています。

これまで、「屋久島研修」、「環境教育出前授業（小中学校対象）」、「子ども環境学習フェア」や、国の絶滅危惧品種に指定され、県鳥でもある「ヤイロチョウ」の保護のため、トラスト地の環境整備や調査に参加するとともに生態の調査を実施するなどの活動を行ってきました。

また、総合的な学習の時間を「四万十概論」とし、四万十川流域の文化や自然中心に郷土の理解を深める学習を行っています。

平成18年度は今までの取組に加え、新たに高校生が独自に「四万十川の環境を考える若武者プロジェクト」を企画し、約200人の参加者を得て開催しました。

#### 実施した取組

##### 「四万十川の環境を考える若武者プロジェクト」

###### (1) 目的

小学生、中学生、高校生や地域住民だけでなく、四万十川に興味関心のある高知県内外の人々にも四万十川の自然環境の現状を知ってもらい、自然環境保全活動や意見交換を通して、四万十川の抱える環境問題を少しでも解決する人材（若武者）を増やす。

また、この活動を継続することで、四万十川を自然豊かな清流へと復活させ、それを維持する。

###### (2) 主催

WZF 若武者絶対増やす実行委員会  
 実行委員長：自然環境コース2年 林 浩史  
 教員代表：環境教育部 前島 正二  
 小笠原理佳

###### (3) 開催日

平成18年11月18日（土曜日）  
 19日（日曜日）

###### (4) 開催場所

11月18日  
 ・ コンベンションホールきらら大正  
 11月19日  
 ・ 四万十川流域河川及び

- 大正地区つづら川周辺の森林
- ・ コンベンションホールきらら大正

###### (5) 参加費

無料

###### (6) 実施内容

- ・ 四万十高校生プレゼンテーション  
 ▶「四万十川の抱える問題について」
  - ・ パネルディスカッション  
 ▶ 地域産業、行政などにかかわる住民と高校生が登壇
  - ・ ビデオ上映  
 ▶ ヤイロチョウビデオ（高知大大学院生作成）
  - ・ 森林保全活動・四万十川一斉清掃
  - ・ グループ協議
  - ・ 四万十川フォトビデオ上映
  - ・ 環境宣言
- ※ 地場産市を同時開催

#### 実施しようとする取組

平成19年度も「四万十川の環境を考える若武者プロジェクト」-Camping四万十Jumping青春!!-は、8月18日（土）・19日（日）四万十高校周辺で行います。



### 高知県山の学習支援事業 [8,348千円] (小中学校課)

本県の森林環境の豊かさを子どもたちに気づかせるとともに、体験活動を通して生きる力を育むことを目的に、「総合的な学習の時間」において年間を通して森林環境学習を実践する小・中学校を支援します。

また、本事業は、森林環境税によるものであり、子どもたちを中心にして広く県民の皆様に、その趣旨を普及・啓発していく役割も担っています。

平成19年度は、36小学校と5中学校の計41校（対象児童生徒 約3,100名）が、「山、川、海のつながり」や「森林と人のかかわり」、「ふるさとの森と水を考える」などをテーマとして、本事業に取り組んでいます。